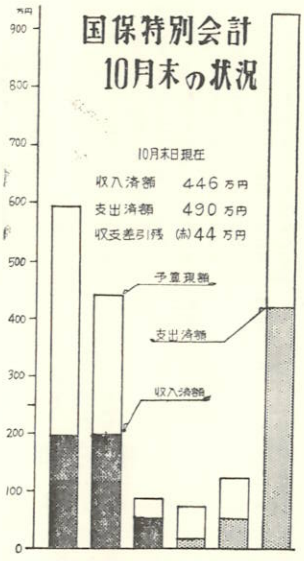
広報伊方町

発行人 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町総務課
印刷所 保内町南予民報社印刷部 電話保内局276番

納税率悪く
44万円の赤字
10月末の国保会計



特別会計の財政状況を、十月末日現在でとらえてみました。

国保会計の財政は、保険税と国の補助金の二本の柱でささえられていますが、保険税の納税率があまりかんばしくなく、十月末では約四十四万円の赤字を出しています。

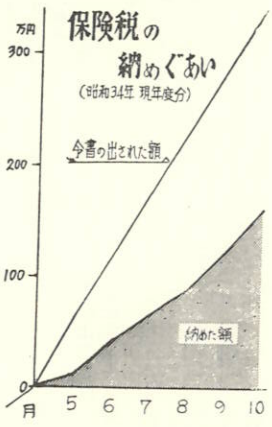
保険税の現年度分についてみますと、十月までに今書を出した調定総額が三四二万円これに対して納まった額は、一六三万円で、納税率は四七%六五という非常に悪い成績となつています。しかし納税率は、五月に一八%八、六月に三四%六、七月に三七%五、八月に三八%三、九月に四二%八、そして十月に四七%六五、というふうに順次あがつているのですから、年度末までには、どうやら赤字にならないようになるだろうと、希望的な観測はできると思われます。

しかし、去年からの滞納繰越分については、思うようには整理が進まず、年度始に一八九万円あつた滞納繰越額が、十月末までには僅か一七%の三二万円だけしか納まつてなく、まだ一五七万円の滞納が残つています。

反面保険の利用状況はどうかといいますと、去年の四月から九月までの六カ月間に受診証を使つてお医者にかかり町から支払つた額は、三八九万円ことし同期の六ケ月間では四六二万円とかなりのぼつております

病気にかかつたとき早くお医者にかかることは非常によいことでどんどん保険制度は利用しなければなりませんが、この国民健康保険の財政を支える二本の柱の内「国の補助」は、保険税の納税率が悪いと少なくなつてしまいます。私たちの国保を立派に育てるため、できるだけ早く保険税を完納することがのぞまれています。

先月の本紙で一般会計の財政について、中間の公表を行ないましたが、今月は、国民健康保険



12月の税金
固定資産税
国民健康保険税
納税は12月末日までに

コドモもとしよりもみんないっしょに
第七回町民運動会開く

伊方地区を区域としてほとんど毎年開かれる町民運動会は、ことし第七回を迎え、去る十一月三日、小雨をついて伊方小学校で開かれた。

この催しは、小さい保育園に通つている幼児から、おとしよりにいたるまで、みんなが参加し、一日をおもしろく遊び融和親睦をはかると共に、部落対抗の競技に血をわかす、ほんとうに町民みんなの運動会であるところに特徴があります。部落対抗など主な競技の結果は次のとおりでした。

⊙部落対抗綱引
1川永田、2大浜、3中浦
⊙小中合同リレー（男子）
1大浜、2川永田、3豊之浦
⊙小中合同リレー（女子）
1大浜、2豊之浦、3中之浜
⊙豊年リレー　1中之浜トマト組合、2湊浦商工会、3川永田ミカン組合
⊙青年団リレー
男子1湊浦、2大浜、3中之浜
女子1大浜、2湊浦、3小中浦
⊙年令別リレー
男子1湊浦、2大浜、3川永田
女子1湊浦2川永田3仁田之浜

なお、大会隨一の呼び物である仮装行列は、各部落区長さんの採点の結果、1位川永田、2位中浦、3位小中浦になりました。

写真は、おとしよりの宝さがし

二見小増築着工
一月末に完成

かねてより準備をすすめていた、二見小学校三教室増築工事は、現在使用中の危険校舎が、ますます危険の度を加え、一刻も猶予できない事態となつたため、財源の確実な見とおしがつかないまま、着工にふみきることになり、十月十一日入札が行なわれ、同月二十日起工式を行ない、いま請負人井上建設（代表者＝井上勝喜）の手によつて完成が急がれています。完成の予定は、一月末で、新学期までには充分まにあう予定です。増築校舎は、木造平屋建七五坪一棟で、教室は五間と三間半のもの三教室それに土間廊下と、板廊下がつくことになっております。設計は町見中、九町小、豊之浦小を設計した、木曽一級建築士によるものです。

婦人学級の映画教室好評
ほとんど毎月ひらく

町教育委員会では視聴覚による社会教育を重視し、夏ごろから、婦人学級に映画教室を設け、ほとんど毎月行なつていますが、十月と十一月は次のように開かれました

▽お母さんの耳は買えない
▽父の座　母の座
▽ぐちっぽいお母さん
▽なかよし港
▽うわさ
▽ボーナスをかせぐ村

10月25日　池上公民館　二見地区
10月27日　水ケ浦小学校
10月28日　伊方小学校
10月29日　川永田公民館
11月13日　豊栄座　九町地区
11月14日　水ケ浦小学校
11月15日　川永田公民館
11月16日　伊方小学校

いずれも上映する映画は、社会教育用に作られたものです。

映画による婦人学級は、仲々好評で、町教育委員会では、今後も続けていく方針です。

学校、保育所を監査

去る十月二十六日、町の監査委員上田弁三、宇都宮勇両氏による事務監査が行なわれた。

対象は、伊方中学校、九町小学校伊方、町見両保育所で、学校や保育所の事務監査はこれが始めて。

主な監査内容は、

1、各種事務手続きは、適格になされているか
2、予算の執行が計画的に行なわれているか
3、消耗品、備品などの物品の管理や購入は適格になされているか
4、施設の管理は良好か

の四点で、その監査の結果指適された主な事項は次のとおりでした

○備品などの寄付があつたときはそのつど寄付採納願をとり、備品台帳に記入すること（伊方中、伊方保育所）

○支払先の領収書が、学校で保管されているものがあるが、これは収入役にいれる領収書に添付すること（九町小、伊方中）

○備品台帳と現物の不突合がある、その記入抹消を適格に実施すること（九町小、伊方中）

○消耗品受拂簿が備えつけられていないが、消耗品の受拂は、受拂簿によることが適当である。（九町小、伊方中、町見保育所伊方保育所）

○予算執行の上に支出科目が誤つているものがある（町見保育所伊方保育所）

なお指摘されたこと以外については、おおむね良好でした。

豊之浦の井上さんに米軍から感謝状

十月十六日付で、米国海兵隊のロバート少将から、豊之浦の井上庶一郎氏他漁師御一同宛として英文でおよそ次のような内容の感謝状が役場に届けられました。

一九五九年五月二十三日、貴殿及び乗組の漁師の皆さんが、アメリカ合衆国並びに特に日本国岩国基地第一海軍航空隊の有能なる故隊員の遺家族に対してなされた非凡かつ顕著な奉仕的行為に対して衷心よりの感謝を捧げます。

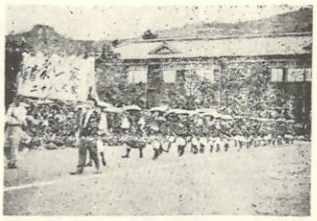
さて、当日、貴殿方は操業中に、突然航空機事故によつて死亡した本部隊所属の隊員の死体に出合わされました。貴殿並びに漁師の皆さんは死体を発見されるや操業を中止し、帰港されて、直ちに日米両国の当局へ通報して下さいました。貴殿方は遺体の保管にあたつては実に当をえた親身にも及ばぬ心づかいと管理をなされました。

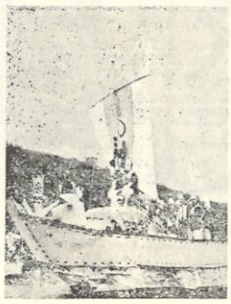
よつて、事後の鑑定の結果、遺体は一九五八年八月二十六日、航空機事故で死亡せし米海兵隊ジョージ、C、ヘンシャウ曹長である事を確認致しました。本官は米国海兵隊、遺家族並びに第一海軍航空隊を代表して、奉仕的に道義的行為をなされた貴殿方に感謝の意を表したいと思います。

誠に日米両国民間の友情と相互理解を育成し促進する誠な思慮深く慈愛ある行為である事を申し添えます。

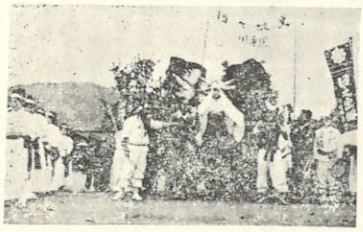
米国海兵隊C・A・ロバート少将
（伊方中、橋本毅訳）

町民運動会 仮装行列のアルバム


↑ 清水一家二十八人衆（湊浦）


↑ 紀ノ国屋ミカン船（小中浦）

↑ かぐや姫（中浦）


← 日本誕生（川永田）

昭和34年10月4日 第三種郵便物認可　昭和34年11月20日　広報伊方町　（毎月一回）　定価一部3円　第37号　【2】

自衛隊見てある記

呉で、海上自衛隊の軍艦？に乗つた。

ちょうど六月二十四日から八月二十六日まで、ハワイ諸島、ロス・アンゼルス方面へ、幹部候補生の実務練習とアメリカとの友好をふかめるため、遠洋航海を行なつて帰つてきたばかりの第一練習隊所属練習艦「たち」であつた。

全長八七、二米、巾一一、四米深さ五、三米をくまなく見せても軍かんとらつたが、人の住む家のような感じだった。アメリカから貸与されているものでもう大分古いものらしい。

以前国産の船を旗艦として、遠洋航海に出かけたら途中貸与船がついていく、海では、古い貸与船を旗艦にしたとのこと。

軍艦（ふねとりは自衛艦といいて）の名まえは、アメリカから貸してもらつているものは

自衛隊見てある記

〈無煙を装船の部〉して、類で知紋艦隊に乗もう付穴があいていたのつた。そ

〈このの部分〉んとの真白い隊員たちの行儀よく整列した中を帰途につく。

「侵略に対し我々は三ケ月前えることができる。」と云つた言葉

〈のにいわゆるかつた。

〈もう一歩迫力に乏しい気がした。

〈にも満たないのだから話しにならない。」と云つていた。

三砲×三四〇機銃×二、爆雷投射機×八、同投下機×二の装備もで、この半分〈

遠洋航

百姓ドック

篠川伊勢由

最近「人間ドック」簿記の記帳分析の体得は日増しに一の出現で、生命のその必要度を加えている。延命が図られるようになつたそうだ。誠に考えてみた。

そこで「百姓ドック」の構想をだ。

農業も今のままでは、いきづまつて死んでしまいそうだ。

農業の近代化を進めるため「百姓ドック」なんてものはできないものだろうか。

自給的農業は、過疎過作により企業的、商業的農業へ発展し、経営規模の拡大へ、家畜の多頭多羽飼養へと、そして個人経営から共同経営、法人化へと、時代の波は流れている。

ここにおいて要求される農民は考える農民であり、時代の流れに即応した知識の吸収に敏感な農民でなければならない。経理事務、農業改良普及員）

農業センターをつくり、町内各機関のあらゆる技術の結集をはかり、フルに活動推進していき、青壮年の錬成講習を開き、また県郡外への短期留学を行う。

農業近代への機動力となり、農業の長期安定を可能ならしめるために農民の、『人づくり』を行なう「百姓ドック」こそは、義務教育

農協運動と並行して、眠れる公民館活動の積極的な拡充施策の再

農協運動は、農村の民主化、農業の近代化を進めるため、遠洋航海を行なつて帰つてきたばかりの第一練習隊所属練習艦「たち」であつた。

全長八七、二米、巾一一、四米深さ五、三米をくまなく見せても軍かんとらつたが、人の住む家のような感じだった。アメリカから貸与されているものでもう大分古いものらしい。

以前国産の船を旗艦として、遠洋航海に出かけたら途中貸与船がついていく、海では、古い貸与船を旗艦にしたとのこと。

軍艦（ふねとりは自衛艦といいて）の名まえは、アメリカから貸してもらつているものは

人権週間

12月10日の世界人権デー（世界人権宣言採択11周年）を最終日として、12月4日から10日までの1週間は「人権週間」です。

この週間の強調事項は「社会生活から暴力をなくすこと」です。

暴力が民主主義の根底を破壊するものであることはいうまでもないが、暴力によって自己の主張を貫こうとする傾向は依然として多く、とくに自己の主張を通そうとするため多数集団の威力を濫用し他人の人権を侵害する事例が少なくない。私たちの権利と自由はあくまでも民主的な方法によってこれを主張し守っていくべきである私たちは、いかなる暴力にも屈しないと同時に、いかなる有形無形の暴力をも絶滅して、明るい社会をつくらなければならない―と、法務省と全国人権擁護委員連合会では呼びかけています。

力づくより話し合い

火の元に注意

火災シーズン来る

火災シーズンに入る注意の徹底をはかるため、11月26日から12月2日は、秋の火災予防運動の期間になつている。

12月は、寒くなり火を扱うことが多く、年末で忙がしくて、注意を忘りがちの時期。2月～4月は空気が乾燥し、春になり人の心もゆるみがちで、大火の多い時期。とにもかくにも火の元に充分気をつけること、火事になつたら早く知らせること。これ以外になら火の元には充分注意して「誰いる。も得をしないで、みんなが損をする」ようなムダを省くようにしたいものである。

火事を出さねば こだまが一二〇

三十二年中の火災による損害は推算二五八億円といわれるが、これで家を作れば一戸五〇万円として、五万戸弱分「こだま」

農村の火事は カマドがいちばん

農協の行なつている建物災生共済に全国で加入している約

冗談じゃありません
「こつちの身にも
なつてください」

11月26日～12月2日
秋の火災
予防運動

火の元には充分注意して「誰いる。

火災シーズンに入る注意の徹底をはかるため、11月26日から12月2日は、秋の火災予防運動の期間になつている。

12月は、寒くなり火を扱うことが多く、年末で忙がしくて、注意を忘りがちの時期。2月～4月は空気が乾燥し、春になり人の心もゆるみがちで、大火の多い時期。とにもかくにも火の元に充分気をつけること、火事になつたら早く知らせること。これ以外になら火の元には充分注意して「誰いる。も得をしないで、みんなが損をする」ようなムダを省くようにしたいものである。

火災の起りやすい月でもあるか

火事の原因はカマドの不始末子供の火遊び、コタツの不始末の順になつているが、隣り近所からのもらい火が半分近く占めており、また農村では一たん火事になると、部会が半分以下でいくいとめるのに八割近くまでが燃えてしまつて

万件に対し、千三百件に一件の割合で火災が発生している。これに支払う共済金は一億二千万円。

農村の火事の九割までが十二月から翌年の四月におきており なかでも四月が目立つて多くなつている。

ポスター紙上展

町見中学校　二年　井田　秀
町見中学校　一年　丸谷吉一
町見中学校　三年　鳥津勝子

（自治庁、文部省主催公明選挙ポスターコンクール参加作品）

人口　12,730
（男 6,275　女 6,455）
昭和34年11月1日現在伊方町の世帯数 2,598

婚姻（十月届分）

出生（十月届分）

死亡（十月届分）

編集後記

一面トップには、先月に引き続いて、国保の財政事情を公表した。二面中央には、いよいよ火災シーズンに入るので、火災に関する統計をかかげてみた。火災防止は何といつても火の元に御用心。これ以外にはないのだから用心に用心を重ねてもらいたい。

文化の日に開かれた町民運動会は小雨の悪天候ではあつたが、仲々盛大に行われた。その仮装行列の写真集を一面にかかげた。紙面の都合で割愛した部落もあるが、いずれ劣らぬ傑作であつた。

自衛隊見てある記は、先月のつゞきであるからそのつもりで読んでいただきたい。筆者は一応氏名を伏せてあるが、かつての軍隊を知らない若い人に思つたまゝを書いてもらつたものである。

新味がないと、しかられるかも知れないが、先月編集や記事の割りつけ方を思い切つてかえてみたが、今月は、先月と全く同じ方法でもう一度繰りかえしてみた。この割り付けのしかたが、広報紙として決して無くはないと、思つたからである。